



ご挨拶

同志社校友会群馬県支部の皆様、今年もお世話になりました。今年は同志社創立150周年の記念の年で、小原学長による地域交流特別講演会が大勢の参加者で盛大に行われて、記憶に残る会を得た事に感謝しております。来年は同志社女子大学の創立150周年と、我が群馬県支部も創立40周年を迎える嬉しい年になります。

世の中では、今年の漢字に「熊」が1位となり、市街地に出没して人身被害のニュースが絶えませんでした。迷惑な熊ですが、その生態は解明されていない点も多くて、特に3~4ヶ月冬眠しても筋肉は20%程度しか衰えないそうですよ。人間の場合は1日で0.5%も衰えるので、同じ期間で試算すると70%位になるそうです。この冬眠中の生態系を調査して、人間の病気に生かせる薬の開発が期待されますが、人間が冬眠中の熊の場所に出没する反撃は無理でしょうか。

観てる人に感動をくれるスポーツは、2月の冬季五輪、3月のWBCを初めとして、サッカーワールドカップも開催され、お気に入りの外国選手が居ても日本チームを応援する日本人のDNAを感じますが、群馬県支部を応援するDNAも育てたいと期待しておりますので、ご協力ください。

支部長 内田 隆雄

春の集い

3月8日(土)、校友会・同窓会38名の有志がマリエールウィル高崎に集まり、恒例の「春の集い」を開催しました。今年は会場一杯に鳴り響く和太鼓の演奏から始まり、新島学園短期大学の福島秀起教授と女子学生9名の「風馬太鼓」クラブによる「太鼓の演舞」は、出席者皆さんの体と心に振動と感動を与えたのもでした。アンコールも含め全5曲の演舞の後、和太鼓に係るミニクイズや希望者の試打もあり、賑やかな舞台となりました。

懇親会は、内田支部長豊泉支部長の開会挨拶、そしてご来賓の共愛学園の須田理事長と新島学園短期大学の岩田学長よりご挨拶を頂き、校友会幹事の小栗氏による祈禱に続き飯降副支部長の乾杯の音頭で和やかに始まりました。乾杯後に共愛学園の大川学園長にご挨拶を頂き、その後若手会員や久々の参加者等のスピーチがありました。また、会員同士の活発な情報交換も行われました。内田支部長と豊泉支部長の閉会の挨拶では、同志社創立150周年の記念イベントの紹介と、群馬県支部の特別企画「同志社大学小原学長による地域交流特別講演会」の紹介がありました。



令和7年度支部総会

10月18日(土)、「令和7年度総会・講演会・懇親会」を開催しました。「総会」と「講演会」を新島学園短期大学の新木造校舎をお借りして行い、その後会場を移動してマリエールウィル高崎にて「懇親会」を行いました。

講演会は「地域交流特別講演会」として、群馬県・安中市・高崎市・上毛新聞の後援を頂き、同志社大学小原学長による「新島襄が目指した教育と社会」をご講演頂きました。高校生や一般の方々180名の来場者をお迎えし、正に地域交流の講演会となりました。来場者全員が小原学長の熱のこもったお話に聞き入り、講演後には小原学長を多くの高校生が囲み質疑を交わしていました。

講演会に先立って行われた総会では、活動報告、会計報告、監査報告、続いて役員改選案、次年度計画案と予算案の全ての議案について原案通り可決承認されました。役員改選では若手4人が新たに幹事として加わりました。

懇親会は会場移動の影響で十分な時間を確保できず、皆さんに忙しく場所の移動をお願いしました。懇親会の参加者は総勢59名でした。内田・豊泉両支部長の挨拶で始まり、小栗幹事の祈禱後、飯降副支部長の乾杯の音頭で始まりました。ご来賓の新島学園湯浅理事長、同志社校友会伊藤副会長、同志社同窓会東京支部吉井会長のご挨拶を頂き、その後初参加者やご来賓の方々よりスピーチがありました。また、同志社創立150周年記念のTシャツを、1,000円の安価で販売した売上金は同志社募金として寄付することとなっています。閉会の挨拶を内田・豊泉両支部長から頂き、恒例のカレッジソングとチアを全員合唱しお開きとなりました。

今回の総会、地域交流特別講演会では会場提供のみならず、来場者への案内や、運営にも多大なご協力を頂きました湯浅理事長はじめ新島学園の皆様にご敬意を表するとともに感謝を申し上げます。



All Doshisha募金

2025年11月30日現在の群馬県の募金状況は、個人で21,394千円、団体で600千円、法人で300千円、合計22,294千円となっております。会員の皆様方にご協力をいただきましたことを、改めて感謝申し上げます。全体の募金状況は全体で26億円を超え、目標の50億円に向けて残り3ヶ月のラストスパートの状態にあります。

群馬県支部としても、残りの期間に可能な限りの努力をして、同志社大学の200年に向けてのスタートを微力ながら後押ししたいので、更なるご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。





新島研究会

(1) 総括

今年は月間の研究発表と共に課外の研修として、6月に国際基督教大学（ICU）を訪問しました。また年一回の研修旅行は昨年の九州・熊本旅行に引き続き九州福岡・長崎を選びました。東京新島研究会との交流では、9月に福岡氏に高崎で「ハーディさんと新島襄」の話をして頂き、12月には群馬新島研究会を代表して角田氏が東京同志社オフィスで「住谷悦治と悦治を囲む人々」の講演を行いました。

(2) 「ICU」訪問（6月18日）

ICUの初代学長は、同志社の総長を務めた湯浅八郎です。同志社と縁が深く是非とも訪れてみたい学校なので、ICUの常務理事の富岡氏に案内して頂きました。丁寧な説明で本校は、基督教の精神に基づき、自由にして敬虔なる学風を樹立し、国際的社會人としての教養をもって、神と人々に奉仕する有為の人材を養成し恒久平和の確立に資することを使命としていることが理解できました。湯浅八郎博士の本学創設・育成に対する貢献を記念して1982年に開館した「湯浅八郎記念館」は、博士の蒐集された各地の民芸品と大学構内の遺跡から出土した考古遺物等が展示されています。

(3) 九州福岡/長崎旅行（10月28日～30日）

高崎を朝7時に出発、羽田空港から福岡空港に同窓会を含めて総勢15名の研修旅行となりました。空港からマイクロバスを3日間貸切で、初日は「大宰府」と「九州国立博物館」と、今回の旅行の最大の見どころである貴重な新島襄の書簡が展示してある「九州歴史史料館」と「警固教会」を見学し、夜は「福岡校友会」と石蔵酒造「博多百年蔵」で親睦会を行い交友を深めました。

二日目は、「海老名弾正顕彰碑」、同志社大学校歌を作詞した「北原白秋」の記念館を訪れ、その後は広大な「吉野ヶ里遺跡」を散策しました。

三日目は長崎市内観光を行い、「グラバー邸」、「大浦天主堂」、「出島」を観て最後に「長崎孔子廟」で「変面ショー」を堪能し帰路に着きました。



平成卒交流会

(1) 総括

今年も3回の平成卒交流会を開催し、懇親を深める事が出来ました。引き続き定期的に交流会を開催致しますので、ご興味のある方や皆様方の中で、平成卒以降の推薦したい方等いらっしゃいましたら、是非、三輪まで連絡をお願いします。

(2) 1月25日(土) 於：韓国キッチン ヨギヨポチャ（八島町）

男性4名・女性1名の計5名で開催。たまには趣向を変えてということで、若者に交じり中年の男女で韓国料理に挑戦しました。かなりハイカロリーで量も多かったのですが、意外とペロリと完食でした。韓国料理、恐るべしです。この後、口直しに2次会のバーに行ったのは言うまでもありません。

(3) 8月1日(金) 於：やきとり廣木（前橋市千代田町）

男性5名・女性3名の計8名で開催。どの焼き鳥も優しくマイルドな味付で、パクパクと食べてしまいました。この後は、近くの白井ホテルにある「the BAR 真茶亭」へ某先輩に連れて行ってもらう、高級店らしく目の前でアイスピックで丸くした氷をグラスに入れていました。流石です・・・

(4) 11月29日(金) 於：旬庭 陽ぐらし（高崎市あら町）

男性5名・女性1名の計6名で開催。お通しから手の込んだお料理が出てきて、終始食べたことない美味しい料理が出てきました。ほとんどが女性客だということも頷けます。この後は、某先輩と上りの1杯？ということで人気のお蕎麦屋さんへ行きました。



2026年計画案（来年の主な校友会行事です。奮ってご参加下さい。）

1. 春の集い：3月21日(土)の予定で準備中、詳細は別途案内を参照ください。
2. 総会・懇親会：10月12日(月)を予定表に記入しておいてください。
3. その他：会員の方々が何か新企画を希望の方は、ぜひご連絡ください。

（ご意見・ご要望につきましては、直接幹事にご連絡いただくか、下記HPのメールでお送りください。）

